

## 上海のグリーン建築への取り組み

近年、中国建築業界は中央政府が提唱した持続可能な発展、循環型経済の発展、省資源・エネルギーの環境親和型社会の構築といった政策に従い、グリーン建築への取り組みを進めている。特に、上海は全国に先立って、グリーン建築の推進と普及に力を入れているとみられる。

中国では、「グリーン建築」が「生態建築」とも呼ばれ、建物のライフサイクルすべての段階で最大限に資源（エネルギー、土地、水、建材）を節約し、環境保全と低環境負荷を達成し、健康、適用及び高効率の利用空間を提供することができる環境共生型建築を指している。上海市は、次のような木造住宅を含め多様な住宅の建設を積極的に進めている。

1. 2003年11月、上海市科学技術委員会は「生態建築にかかわるキー技術の研究とシステム化」技術開発プロジェクトをスタート。当該プロジェクトが中国並びに上海の経済レベル、気候条件、資源及び地域文化に適する生態建築のキー技術の研究、モデル化並びに普及により、中国並びに上海の特徴を有する生態建築集成技術体系の構築、世界水準のモデル建設、環境共生型のオフィスモデルと住宅モデルを建設することを目標としている。実施主体は上海市建築科学研究院であり、上海交通大学、上海理工大学、上海電力学院、上海植物園との共同でプロジェクトを進めることとなっている。
2. 2004年7月、上海建設当局は「上海市生態型住宅団地建設管理方法」、「上海市生態型住宅団地技術実施細則」に基づき、「万科朗潤園」、「安亭新鎮1期」、「中房森林別荘」、「祥和星宇」、「漕河景苑」を生態型住宅団地に認定。
3. 2004年9月、環境共生型オフィスモデルビル（1,900m<sup>2</sup>）が上海市建築科

学研究院の莘荘科技パークに建てられた。当該モデルビルには、省エネ、自然通風、自然採光、健康空調機、再生可能なエネルギー、グリーン建材、知能制御、屋根緑化、資源リサイクル、快適な住環境に関連する技術を採用した。

4. 2005年8月、省エネ型モデル住宅2棟（タウンハウスの1棟：238m<sup>2</sup>。縦割り式多層住宅の1棟：402m<sup>2</sup>）が上記科技パークに建てられた。
5. 2007年6月、上海万博開催事務局は、万博開催の浦西パークに実用型の生態住宅（3,000m<sup>2</sup>）を建設する計画を発表。